

## 「第4回 市民団体と市職員との研修会」について（報告）

1. 日 時 平成28年11月11日（金）9時～12時
2. 参加者 市民19名 職員20名（別紙のとおり）
3. 内 容 “これからの協働に必要なもの”をみんなで考えるワークショップ
4. ねらい 狭山のこれからの協働に必要なことを主体的に考え、協働への理解を高めること
5. 各グループから出た協働に必要なもの（プレゼンテーションの結果）
  - ① つながりの拡散・・・狭山市民総活躍を目指して年代関係なくワイガヤで話し合う場の継続
  - ② 人材集め・・・核になり協働を推進していく人を集める、つくる
  - ③ P P A P・・・職員と市民のような異業種、異なる人をつなげる仕組み
  - ④ 金・・・お金を生み出す仕組み、ビジネスの視点、要素
  - ⑤ 同じ想いを持った人の集まり・・・共通認識を持ってつながることが協働のスタートになる
  - ⑥ コーディネーター・・・橋渡しできる人を増やし、色々な人がつながれる社会をつくること
  - ⑦ 想いの共有・・・参加の輪を広げ、達成感を共有することが仲間を増やしていく
  - ⑧ 自立、体験、対話・・・それぞれの根底にある大切なものとしては「愛」

※研修参加者が8つのグループに分かれ、その結果、上記のまとめ発表が最後にあった。

### 6.成 果

今回の研修は、これからの狭山の協働に必要なものについて、正面から考えてもらうことが大きな狙いでした。今回はまず、協働自治推進課長の説明で、今までの協働への取り組み、実施してきた事業を詳しく振り返りました。そして今後の狭山市の協働が進むべき方向性について、今日の参加者の皆さんから意見を頂きたいという今日の研修の狙いを説明しました。そこを明確に訴えかけることで研修への参加意欲を掻き立てることにつながったと思います。

その後、マグネットテーブルという手法を用いて、各参加者の考える”必要なもの”が似ている人たちでグループを形成し、そのグループごとに活発な議論を重ねました。

そして最後にグループごとに討議した結果を、協働自治推進課長へ提言する形式でプレゼンテーションしてもらいました。

今回の研修においては、今後、協働ガイドラインの見直しに進むのか、それともまちづくり条例など他のものを新しく設置するのかというその趣旨を明確にしたことで、改めて一人一人に協働について考えてもらうことができたと思います。

また、研修後のアンケートでも「互いを理解するきっかけになった」「前向きになった」「市民のやる気を感じました」など、概ね肯定的な意見が多く書かれていました。

今後さらに市民と市職員の対話の場となる研修を開催し、更なる協働に対する意識啓発に努めていくとともに、ガイドライン見直しの方向性についても検討を重ねていきます。